

寸言

三菱重工航空エンジン株式会社
取締役社長
牛田 正紀



あらたな一歩 –入会のご挨拶–

この度、伝統ある日本航空宇宙工業会に入会させていただくこととなり、大変光栄に存じます。また、入会にあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

当社は2014年10月1日に三菱重工業株式会社の民間航空エンジン部門が事業競争力強化を目的に会社分割され、三菱重工航空エンジン株式会社として発足しました。会社発足以降、コロナ禍での一時的な需要蒸発はありましたが、旺盛な航空需要に支えられ着実に事業を拡大、今後も航空機産業の市場成長と相まって更なる伸長を見込んでおります。

当社にとりまして2024年は、10周年を迎える節目の年です。これまで以上に業界内でしっかりと責任を果たしていくべく、この度、三菱重工グループの一員としての本会への活動参加から一歩踏み出し、改めて正会員として入会させていただくこととなりました。

当社の事業としましては、エンジン新製事業では古くは1980年代よりエアバスA320用V2500エンジン、ボーイング747他用PW4000エンジン等、また2000年以降はエアバスA320neo用のPW1100G-JMエンジン、A350XWB用のTrentXWBエンジン及びボーイング787用のTrent1000エンジン等の共同開発・新製事業に参画しています。また、エンジン整備事業では、国内外のエアライン向けに、エアバスA320用のV2500エンジン、エアバスA320neo用PW1100G-JMエンジン、ボーイング747他用PW4000エンジン等の整備を請け負っています。2017年には三菱重工業からの吸収分割で防衛エンジン事業を統合し、MHIが自社開発した観測ヘリOH-1用TS-1エンジン

の新製・整備や各種戦闘機用エンジンへの部品供給、輸入エンジンの整備等を行い、防衛航空機の運用を支えてきました。

技術面においては、当社はジェットエンジンの中でも技術的に難易度の高い、高温部の燃焼器や回転体のタービンを得意としており、欧米のエンジンメーカーと低燃費でエコなジェットエンジンの共同開発・製造を行っており、独自の設計・製造技術により重要なポジションで事業を展開しております。

製造面においては、今後の増産要求に応えるため、既存の小牧北工場（愛知県小牧市）に加え、2020年10月に三菱重工業長崎造船所内に新たに長崎工場を開設。主にPW1100G-JMエンジンの燃焼器の一貫生産に取り組んでおります。また、エンジン整備事業においては、世界中で増加する整備ニーズに応えるため、2023年2月に小牧北工場内にあるエンジン整備工場の拡張工事を完工。整備能力を月産5～6台から10台以上へ拡充し、将来的には月産15台へ拡大する計画です。2023年7月には新たに整備を始めたPW1100G-JMエンジンの整備初号機を出荷しました。

当社では、航空エンジンの長期的な需要増を見据え、今後も新規製造と整備の両面で市場のニーズに応えるべく必要な体制整備を進めて参ります。また、燃費の良い高効率な航空エンジンの開発・設計・製造により、「空のカーボンニュートラル」実現にも貢献していきたいと考えています。社業を通じ、微力ながら航空機産業の発展に貢献して参りたいと考えておりますので、引き続きのご指導ご鞭撻を、よろしくお願い申し上げます。